

婦人科腫瘍患者における末梢血検査データと予後や再発等との関連

1. 研究の対象

1988年1月～2017年10月までの間に当院で治療を受けた婦人科腫瘍患者さんが対象となります。

2. 研究目的・方法

他癌種において治療前の血液検査データと予後等が関連することが言われており、大腸癌、肺癌などでは好中球数/リンパ球数の比率（N/L比）が高いほど全生存期間や再発までの期間が短いことが示唆されています。また胃癌などではN/L比及び血小板数が抗癌剤の効果に関連するとする報告なども散見されます。その他の血液検査と癌の関連として、アルブミン値が予後等と関連するといった報告もあります。

N/L比や血小板数などは炎症の指標として評価され、アルブミンは栄養状態の指標として評価されることが多く、担癌状態の患者においては全身状態の指標として有用であると考えられます。

そこで今回は当院における婦人科腫瘍患者を対象とし、治療前の血液検査データと予後や抗癌剤治療の奏効などを検討し、何らかの予測因子となる可能性があると考え、検討を行うこととしました。

研究期間は防衛医科大学校倫理委員会承認後から平成33年12月31日までを予定しています。

診療目的で検査された血液検査データと病歴（病気のひろがりや再発までの期間、生存期間等）を用いる調査研究ですので、研究のために追加で検査を行ったり、新たな検体の採取を行うことはありません。また金銭的な負担が生じることもありません。

研究に協力いただいた方への直接的な利益はありませんが、本研究によっても婦人科腫瘍患者において、治療前の検査データが予後や抗癌剤への効果などと相関を認めれば、今後の診療成績の向上の一助になり得ると考えられます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録（カルテ）から血液検査データを抽出します。また病気の発症日（診断日）から死亡・再発・増悪までの期間、治療内容、抗癌剤治療の有無とその効果、癌のひろがり（進行期）、その他日常診療で得られた年齢や身長・体重などの臨床データ等を採取し解析する予定です。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学病院 産科婦人科 医学研究科 青山 真

住所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

TEL：04-2995-1211（代表）内線：2363

研究責任者：

防衛医科大学病院 産科婦人科 教授 古谷 健一

住所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

TEL：04-2995-1211（代表）内線：2363